

治療には最善を尽すべきである。産婦人科急患者は全患者の5~7%であるが、逐次増加の傾向にあり早期に産婦人科救急病院の実現を希望する。

197. 家族的に発生せる男性仮性半陰陽について

(北海道大) 岸本彦三郎

家族的に発生した男性仮性半陰陽の症例があつたので報告する。症例は(1) 18才, (2) 16才, (3) 15才, (4) 10才, の同胞5名で全部女性の内の4名である。今回は諸検の出来た3例について報告する。検査は一般検査, 全身所見, 局所所見, 各種ホルモン尿中排泄量, 基礎体温, トルコ鞍像, 骨年齢, 甲状腺機能検査,

染色体, 腔細胞診, 副腎皮質機能検査, 骨盤計測, 腎臓撮影, 脳波, 筋電図, 腹腔鏡写真撮影, 精囊撮影等を施行した。検査所見から考えて, Morris の Intersex の分類から見て, 男性仮性半陰陽と診断, 手術療法を行なつた。両側単径部の腫瘤の摘出病理組織標本では3例共睾丸であつた。術前術後の尿中排泄ホルモンについて検査した Estrogen と Pregnandiol は術後やや低値を示し, Gonadotropin は2例において高値を示した。17-KS, 17-OHCS について術後3カ月の経過を見ているが, 安定した値を示して来た。現在もなお検査をつづけ経過観察中である。

第13群 良性腫瘍に関する問題

198. 睾丸組織を有する性器奇形の3例—とくに卵巢睾丸と未分化胚細胞腫合併例について

(金沢大)

赤須 文男, 西田 悦郎, 名越 和美
炭谷 治郎

(中央検査部) 松原 藤継

産科婦人科領域において臨床的に取扱われる半陰陽は一般に睾丸組織を有する男性偽半陰陽であるが, われわれは特異的な性器奇形を有し, 卵巢睾丸 Ootestis と未分化胚細胞腫とを合併した極めて稀な症例を経験したので報告する。また, 睾丸性女性化症 Testicular feminization の定型例および非定型例について内分泌学的検討をも併せて報告する。

卵巢睾丸は23才で, 外性器は女性様であるが陰核が極めて大きく, 腔は欠損し腔前庭には外尿道口は正常位置になく, 腔入口に相当する部分に開口し, 患者は数年来月経をみているといい, また入院観察中も外尿道により数日間の血性排出物および血尿をみた。

開腹所見では子宮・卵管左側卵巢はほぼ正常であり, 腔は上方約1cmのみ存在し, 一見盲端に終っていたが細管にて尿道に連絡していたものと推測された。右卵巢は鶏卵大の実質性腫瘤であり, 組織学的に卵巢および睾丸組織を混在する未分化胚細胞腫であつた。腫瘍を摘除し造腔術を行なつた。

2例の Testicular feminization では共に単径部の睾丸を摘除し, 造腔術を行ない, 手術前後の尿中 17-KS, Estrogen その他を測定比較したが, その結果, 該睾丸か

らかなり多量の Androgen と Estrogen の分泌のあることが観察された。

質問

(徳島大) 岸 恭也

第1例は貴重な症例だと思いますが, 次の点についてお伺いします。この症例では Spermatogenesis, Wolff 管の發育, 組織学的な Ovo. 及び Testis との親近性, 遺伝性はいかがですか。

答弁

(金沢大) 西田 悦郎

Spermatogenesis は全く認められなかつたが, Leidig 細胞と思われる細胞が散見され, これらから分泌された Androgen が Clitoris 肥大を起させたものと思われた。

本症例(第1例)は Müller 管の極めてよく発達した症例であり, 男性副性器はみられず, Wolff 管由来の組織は殆んど発達していないものとみなされた。

腫瘍の大部分は Dysgerminoma によつて占められ, 腫瘍の辺縁部に睾丸及び卵巢の組織がみられたが, 発生学的な解明は困難と思われた。

3等親以内には性器奇形患者はいないとの事であつた。

199. 腹腔鏡により Follow up した腹膜偽粘液腫の1例

(札幌北農) 後藤 史郎

症例は45才, 農業家婦, 昭和39年5月, 内科医により下腹部腫瘍を指摘されたが放置していた。初診昭和40年8月9日, 子宮腔部ともに移動する人頭大腫瘍を触知した。

昭和40年8月17日手術, 開腹と同時に粘稠膠様物質約